

川西町にぎわいづくり検討委員会の設置について

I 目的

本町の中心市街地活性化に向けたにぎわいづくりの拠点として、稼働初年度（令和8年度予定）から施設の有効活用を図り、施設を中心とした中心市街地エリアのにぎわいと中心市街地と連動した川西町全体のにぎわいを創出するため、ハード整備と並行して日常及び非日常の使い方や施設運用等について検討を進める。

II 検討スケジュール（検討ステップ）

1 検討期間

令和5年度から令和7年度

2 年度毎の検討内容

（1）令和5年度（ステップ1）

- ①日常での施設利用
- ②非日常でのイベント等による活用
- ③イベントの実証実験①

（2）令和6年度（ステップ2）

- ①令和5年度の振り返り
- ②企画内容のブラッシュアップ
- ③イベントの実証実験②
- ④人材育成①（プレイヤーの選定等）

（3）令和7年度（ステップ3）

- ①令和6年度の振り返り
- ②プレイベントの実施
- ③課題の洗い出し及びフォローアップ
- ④人材育成②（プレイヤーの育成等）

III 組織構成

1 メインアドバイザー（委員長）

東北芸術工科大学 教授 渡部 桂 氏

2 設計アドバイザー

株式会社鈴木建築設計事務所 設計チーム

3 検討委員会委員（30名程度）

（1）関係団体に属する者

- ①小松地区交流センター ②川西町商工会 ③川西町観光協会
- ④川西町社会福祉協議会 ⑤えき・まちネットこまつ
- ⑥J A山形おきたま ⑦中央公民館利用団体 ⑧こまつ市実行委員会
- ⑨子育て支援センター ⑩子育て世代（幼児施設保護者会）
- ⑪置賜農業高等学校 ⑫川西中学校

（2）町外の者

（3）公募による者

（4）上記以外の川西町地域振興拠点施設整備基本設計町民WS委員の一部

4 発注者支援

公益財団法人山形県建設技術センター

5 事務局

政策推進課、まちづくり課

IV 令和5年度（ステップ1）の検討内容詳細

1 ワークショップ

（1）開催日程

- ①第1回：令和5年5-6月
- ②第2回：令和5年8-9月
- ③第3回：令和5年10-11月
- ④第4回：令和5年12月-令和6年1月
- ⑤第5回：令和6年2-3月

※原則日曜日とし、時間は午後1時30分から午後4時30分とする。

（2）開催毎のテーマ

- ①第1回：「(仮) 新しい施設の楽しみ方、日常のにぎわいづくり①」
 - 令和4年度基本設計町民WSアイデアの振り返り
 - 年間を通じた誰もが気軽に立ち寄れる施設機能や施設運営の在り方
- ②第2回：「(仮) 日常のにぎわいづくり②、非日常のにぎわいづくり①」
 - 年間を通じて誰もが気軽に立ち寄れる施設機能や施設運営の在り方
 - これまでにない新たなイベント企画
 - こまつ市などの定期的に行われる既存イベントの充実

③第3回：「(仮) 非日常のにぎわいづくり②」

○これまでにない新たなイベント企画

○こまつ市などの定期的に行われる既存イベントの充実

④第4回：「(仮) 非日常のにぎわいづくり③」

○これまでにない新たなイベント企画

○こまつ市などの定期的に行われる既存イベントの充実

○新たなイベントの実証実験に向けて

⑤第5回：「(仮) 施設に人を呼び込む方法」

○日常・非日常のにぎわいづくりのまとめ

(3) 検討手法

- ①ワークショップでは班ごとに話し合いを行うこととし、回毎の到達点を設定する。
- ②日常でのにぎわいづくりでは、年間を通じて誰もが気軽に立ち寄れる施設機能や施設運営等の在り方について意見を集約する。
- ③非日常のにぎわいづくり(新たなイベントの企画・核となるイベントの充実)の検討にあたっては、令和4年度基本設計町民WSで抽出された「にぎわいの種」と「7つの方向性」をベースとした、実現可能な企画内容を6W2Hで検討し、イベント企画書として整理する。

項目(6W2H)	検討内容	備考
なぜ	目的、趣旨	
いつ	時期、時間、期間	
どこで	場所(空間)	
だれが	主催者(プロデューサー)	
なにを	イベント内容、アピールポイント	
だれに	ターゲット層(プレーヤー)及び規模感	
どのように	成功に導くための演出やアイデア	
いくら	収支予算の算定、お金の出所や収益性	
※課題及びその対応策も併せて検討する。		

2 先進地視察研修

(1) 目的

「にぎわいづくり実践者」との交流の中から、「にぎわいづくりの手法」を学び、第2回WS以降のまちづくりの視点による検討に導く。

(2) 視察先

新潟県三条市「まちやま」

(3) 視察時期

令和5年7月

3 イベントの実証実験①

(1) 目的

非日常のにぎわいを作り出すイベントは、企画⇒実験⇒改良の繰り返しが重要となることから、検討期間の早い時期から実証実験を実施する。

(2) 時期

令和6年2月から3月

(3) 会場

いきがい交流館、又は農改センターを想定

(4) その他

実証実験のイベントはフルスペックとはせず、簡単に実施できるものとする。

4 (仮称) こども・若者フォーラム

(1) 目的

拠点施設機能や運営などに、「こどもの目線」や「若者の声」を反映させるため、直接こどもや若者の皆さんの意見を聞く「こども・若者フォーラム」を開催する。

(2) 時期

令和5年9月

(3) 参集者

① 町内小学校（小松小学校を想定）

② 川西中学校

(4) その他

開催にあたっては、メインアドバイザー・設計アドバイザー・事務局などが学校に出向き、自由に活発な意見集約に努める。